

# 2021年度

## 第2四半期決算

期間：2021年1月1日～3月31日

2021年5月7日ドイツ・ミュンヘン

### 全ビジネスで素晴らしい業績 - 再度見通しを上方修正

「第2四半期の受注と売上は目覚ましく、顧客は当社に大きな信頼を寄せています。当社は顧客のデジタルトランスフォーメーションを支援し、顧客は、業務における速度の向上、効率性の改善、より持続可能な成長を実現することができています。私は、一今なお続く不確実性の中にあっても—当社のすべてのビジネスが優れた結果を出していること、そして、利益を伴って成長していることを大変嬉しく思います。シーメンスで働く全世界の人々の献身、そして彼らが常にグロースマインドセットを失わないでいることに感謝しています」—シーメンスAG社長兼CEO ローランド・ブッシュ

「第2四半期は、とりわけ困難な状況の中で、再びシーメンスの実行力と信頼性を際立たせる結果となり、それがすべての重要な財務数値に表れています。中でも自動車産業、機械製造、当社のソフトウェア事業、そして地理的には中国で成長の勢いが加速しています。当社インダストリービジネスの利益率の成長が十分であったうえ、効果的なポートフォリオ管理も奏功しました。さらに、シーメンスはまたしても素晴らしいキャッシュフローを達成しました。これらのことから、当社は、今年度下期に対して自信を深めており、インダストリービジネスと純利益両方について大幅に見通しを上方修正しています。」—シーメンスAG最高財務責任者 ラルフ・P・トーマス

- 為替変動とポートフォリオの影響を除くと、受注は比較可能ベースで11%増、売上は9%増。
- 名目ベースでは、Siemens Healthineersの2桁成長が牽引し、受注は8%増の159億ユーロ。売上は、すべてのインダストリービジネスの成長により、6%増の147億ユーロ。出荷受注比率は、1.08。
- インダストリービジネスの利益(Adjusted EBITA)は、すべてのインダストリービジネスでの堅調な業績により31%増の21億ユーロ、インダストリービジネスの利益率は15.1%。
- インダストリービジネスの利益(Adjusted EBITA)の増加、非継続事業でフレンダー GmbH(フレンダー)の売却益が9億ユーロ、そしてインダストリービジネス以外でのプラスの効果により、純利益と基本1株当たり利益(Basic EPS)は大幅に増加し、それぞれ24億ユーロ、2.82ユーロとなった。2020年度第2四半期の純利益7億ユーロ、基本1株当たり利益0.80ユーロには、非継続事業による3億ユーロの損失が含まれていた。
- すべてのインダストリービジネスでの増加を含め、継続事業および非継続事業からのフリーキャッシュフローは12億ユーロ(2020年度第2四半期:1億ユーロ)と好調。

# SIEMENS

Siemens

(単位：100万ユーロ)	第2四半期		増減	
	2021年度	2021年度	実績	比較
受注	15,879	14,664	8%	11%
売上	14,665	13,784	6%	9%
利益 (Adjusted EBITA) インダストリービジネス	2,088	1,592	31%	
内：退職手当	(129)	(160)		
利益率 (Adjusted EBITA) インダストリービジネス	15.1%	12.1%		
退職手当を除く	16.0%	13.3%		
継続事業からの利益	1,516	992	53%	
内：退職手当	(215)	(189)		
非継続事業からの利益 (損失)、(税控除後)	874	(295)	n/a	
純利益	2,390	697	>200%	
基本1株あたり利益 (単位：ユーロ)	2.82	0.80	>200%	
フリーキャッシュフロー (継続事業)	1,326	685	93%	
フリーキャッシュフロー (非継続事業)	(111)	(551)	80%	
フリーキャッシュフロー (継続事業と非継続事業)	1,215	134	>200%	
ROCE (継続事業と非継続事業)	21.2%	5.0%		

- コロナウイルスパンデミック (COVID-19) の影響により引き続き複雑なマクロ経済環境：パンデミックによる制限が最初に始まった2020年度第2四半期と比較して中国が堅調な成長を見せるなど、当四半期中繰延需要と成長機会は事業や地域によって差が見られた。
- 大幅な為替変動の影響が受注と売上それぞれから前年比で4ポイント減算。ポートフォリオの影響が受注と売上それぞれに1ポイント加算。
- 受注は比較可能ベースで好調で、Siemens Healthineersとスマートインフラストラクチャーの2桁成長が牽引。
- 売上は、デジタルインダストリーズとSiemens Healthineersの2桁成長が牽引し、比較可能ベースで4つのインダストリービジネスすべてで増加。
- スマートインフラストラクチャーの利益 (Adjusted EBITA) が2倍以上、デジタルインダストリーズおよびSiemens Healthineersが2桁増を計上し、インダストリービジネスの利益 (Adjusted EBITA) は大幅に増加。モビリティは、高かった前年度水準付近の利益率を維持。インダストリービジネスの利益には、以降の四半期も減少が見込まれる出張費やマーケティング費用の削減などCOVID-19の制限により生まれた費用削減効果が前年度比で貢献。
- インダストリービジネス以外では、主にChargePoint Holdings, Inc. (ChargePoint) のシーメンスの株式をシーメンスペンシオントラステ.V.に譲渡したことに関連する2億ユーロの利益、またシーメンスファイナンシャルサービスによる高い利益貢献によって、全社費用がプラス変動。
- 純利益は、大幅に増加したインダストリービジネスの利益 (Adjusted EBITA)、および主にフレンドーの売却による9億ユーロの利益に関連する非継続事業のプラスの貢献により、大幅に増加。2020年度第2四半期の非継続事業による損失は、主に以前のエネルギー事業に関連するものであった。
- インダストリービジネスは、すべてのインダストリービジネスの改善によりキャッシュコンバージョンレートの1.03となり、2020年度第2四半期の11億ユーロから大幅に増加し21億ユーロの極めて好調なフリーキャッシュフローを計上。この増加は、インダストリービジネスのフリーキャッシュフロー以外で発生した12億ユーロという非常に高い税金により一部相殺された。非継続事業からのフリーキャッシュフローは、シーメンスエナジーによって大幅なキャッシュアウトフローが計上された2020年度第2四半期と比較し、改善した。
- フレンドー売却の対価は18億ユーロ (売却時現金控除後)。キャッシュインフローには2021年度第2四半期に16億ユーロが含まれ、2021年度第3四半期に2億ユーロの収益となる。支払額はフリーキャッシュフローに含まれない。
- 2021年3月31日現在の年金引当金および類似債務は33億ユーロ (2020年12月31日時点では50億ユーロ)。この減少は、主に、割引率の上昇と金融資産の貢献によるものであり、従業員の退職後給付金のためにシーメンスの年金資産を強化する目的でChargePointの株式をシーメンスペンシオントラステ.V.に譲渡したことが含まれる。
- ROCEは、純利益の大幅な増加と平均投下資本の大幅な減少が相まって増加。フレンドーの売却益はROCEに7.5ポイントを加算。